

千秀だより

横浜市立千秀小学校

6月号

平成29年(2017)6月 1日



ツバメの子育てから

校長 市川 幸男

前日までの雨に、空をにらんでは悪態をついていたのが嘘のように晴れ渡り、気持ちの良い五月晴れの中、皆様のご協力をもちまして、平成29年度の大運動会を無事終えることができました。溢れる日差しの中で生き生きと躍動している子どもたちの姿を目の当たりにし、当日までの練習の姿がよみがえりました。練習開始当初は、これは大丈夫なのだろうか心配しましたが、一生懸命音楽を聴き、体と心でリズムを取り、動きを乗せていく低学年の演技。個の技能と集団での技能の両面でがんばった中学年の縄を使った演技。そして友と力を合わせ作り上げていた高学年の組体操にと、さすがは千秀の子ども達、どの学年も最高の盛り上がりを見せた演技でした。終了後の充実感に満ちた笑顔を忘れることはできません。願わくは、今回の成功体験が自己肯定感を高め、「自立心」の育ちに結びついてほしいと思いました。

先日、田谷の交差点付近で何気なく空を眺めていましたら、私の頭の上をカラスが何回も低く飛んでいるのです。何をしているのかと見ていますと、そのカラスを2羽のツバメが威嚇しているように飛んでいきます。カラスが逃げていくと、ツバメは追いかけるのをやめて、身を翻し、一軒の軒先に入っていました。そこにはツバメの巣があり、その巣の中には大きな口を開けた雛が、親鳥の運ぶえさを待っている姿が見られました。なるほどと納得しながら、「ご苦労様」と投げかけましたが、ツバメにとって何倍も大きなカラスに向かっていくということは大変なことだろうと思います。その後もカラスが近づくと、必ず2羽のツバメが飛んでくるという繰り返しを十何回も見てしまいました。そして体は小さくても子を守る親として、必死に飛び回っているツバメの健気な姿に感動をしてしまいました。



それから一週間後、ツバメの成長が気になったので、再び田谷の交差点に行きました。そこには、親鳥と同じような大きさに育った子ども達があります。巣から口を出し、えさを運ぶ親に甘えていた姿はもう見られません。それどころか巣から体を出し、翼を開き、羽ばたき、巣立ちの準備をしているようです。一方親はというと、以前のように頻りに巣に帰り、子ども達の世話をする姿は見られませんでした。あたりを見渡すと、近くの電線の上にじっと止まり、巣の中の様子を、じっとうかがっているように見えました。

さて、子どもは、日に日に伸び、成長しています。小学生ですからもちろん親として手を差し伸べることは大切です。ことの善悪の判断、日々の生活づくり、友達との関係づくり、どれをとっても生きていくために、大切な力であり、その育成には親の力が不可欠です。でも、時には見守ることが必要とされる時期があります。その時期を見極めることは大変に難しいことですが、子ども達の自立を促すためにも、子ども達の判断・行動を尊重し、少し距離をおいて見守ることも大切と、ツバメを見ていて思いました。それは私たち教職員同様です。日々の指導の中、子ども達の成長の段階を見極め、それぞれの段階に応じた指導をして参りたいと考えております。